



公益社団法人 秋田県理学療法士会

Akita Physical Therapy Association NEWS

Vol. 207
Winter

Partner

広がれ 秋田県理学療法士会員、そして地域との輪

令和5年元旦 会長より新年の挨拶

創立50周年式典開催

新役員紹介

秋田県理学療法士会と災害支援⑤

表彰報告

研修会・セミナー案内

会長のおゆみ/思い邪無し

発行：公益社団法人 秋田県理学療法士会

会長：菅原 慶勇

責任編集：佐々木杏奈

印刷：(株)秋田情報プリント

事務局：〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40

TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org

ホームページ <https://www.ptakita.org>

令和五年元旦

会長より新年のご挨拶



秋田県理学療法士会会長

菅原 慶勇



変化する時代に対応しながら
健全で積極的な士会運営を

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。会員の皆様には、旧年中コロナ禍におきましても、当会の運営につきまして格別のご協力とご支援を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。加えて、昨年12月の臨時総会で、会費規定変更についてご承認頂きましたことを、感謝申し上げます。3年を経たコロナ禍により研修のスタイルは様変わりしましたが、よりリーズナブルで幅のある選択方法が定着したともいえます。現に、10年前は20程度であった研修会が、昨年は倍の40に増加したうえに、士会費の返還も叶いました。会費規定変更により予算収入は減りますが、事業活動を縮小することなく、県市町村の補助金の活用や研修スタイルを時々に応じてWeb、対面そしてハイブリッドなどを選択しつつ、健全で積極的な士会運営を心がけていきたいと考えています。また、昨年暮れに行われました公益法人事業所に対する立入検査においては、新公益法人制度を逸脱するような指摘はされませんでした。これも会員の皆様の各事業に対するご理解とご協力があったることと重ねてお礼申し上げます。

さて2022年は、特に重要な案件が4件ありました。一つ目は、当会創立50周年記念事業の開催です。世の中はウィズコロナに向かいつつも医療介護業界はゼロコロナといった致し方のない状況下ではありましたが、

多くのご来賓の皆様のご臨席のもと記念講演会と記念式典を盛会裡に終えることができました。ご臨席賜りましたご来賓の皆様、そして、ご支援下さった会員の皆様にこの場をお借りし改めて感謝申し上げます。諸先輩の築き上げてくれた輝かしい歴史を、発展した形でどのように繋げていくのか課題は諸々ありますが、県民の皆様に関わりを深め、立ち上がろうとするときの支えになれる団体として鋭意努力を続けていく所存でございます。今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

二つ目は、初の理学療法週間公開講座3ブロック同時開催です。長年の懸案であった対面形式での講座の同時開催にあたっては、コロナ禍ゆえに参加人数を制限するなどの感染対策を施して行わせて頂きました。地域密着型が叫ばれて久しく経ちましたが、当会が市町村との結びつきをより強くしていくためには、中央主導ではなくブロック毎に配置している3地区がそれぞれどのような関わり合い方をするか、その呼び水としてブロックや地区毎の開催が絶対条件であると考えていました。各ブロックともに特色ある講座が行えたことは、大変喜ばしいことだと思っています。当会が、地域に貢献する一つのスタイルとして定着するよう、今後とも力を入れていきたいと考えています。

三つ目は、日本理学療法士協会による新生涯学習システムの開始です。新たな試みにおいては、様々な問題点が出てくると思いますが、当会でも疑問等にお答えする支援体制を整えていますので、特に各施設の理学療法士の長である立場の方には、積極にご連絡頂き活用をお願い致します。また、単体の施設では難渋するであろう新制度に絡めた症例報告会や研修会についての情報を、当会ホームページやニュースでお知らせしますのでお役立て下さい。

四つ目は、第26回参議院議員選挙についてです。残念ながら組織内候補の落選という結果になってしまいました。会員の皆様には大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げる次第です。組織内候補の在職中のご活躍を知っているだけに、力及ばなかったことが申し訳なく、しかもごく僅かの票差であったことが悔しさに拍車をかけました。士会組織に厚みを出すにはどのようにしたらよいか。非常に難しい課題ですが、組織内連携について別の角度からも考えてみたいと思います。

医療を業とする我々にとっては、新型コロナウイルス感染症との関わり抜きに物事を語るができなくなってしまいました。それでも昨年は、ハイブリッドで50周年記念事業を開催し、私個人としては対面の全国学会に参加させて頂きました。どちらにおいても若手会員の皆さんと話が弾み、何とも言えない心地よさを感じました。この感じを特にコロナ禍で経験していない若手会員に是非体験して頂きたい。今年の6月に開催される27回県学会では、対面で行われる学会独特の心地よさも体感して頂ければと思っています。

終わりに、会員の皆様には本年を無事健康で過ごせ、実りある年となるようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も、当会の取り組みに対してご理解とご協力を頂けますよう、宜しく願い申し上げます。

秋田県理学療法士会会長
菅原 慶勇

50年の歴史を振り返り 皆様とともに 次の10年へ



会長のご挨拶にもありました通り、昨年11月5日に秋田キャッスルホテルにて、当会の創立50周年記念式典を執り行いました。多くの方々からご祝辞や祝電を頂き、またコロナ禍にも関わらず、100名近い県士会員の皆様にご列席頂きました。誠に有難うございます。併せて、功労賞を受賞された先生方には、県士会への多大なご協力・ご尽力に改めて感謝申し上げます。

式典準備の中で50年の歴史を振り返ると、いかに諸先輩方が残して下さった足跡が大ききものであるかを知り、敬意の念を抱くとともに、自分自身が県士会と県民の皆様のために何ができるのか、次の10年で何を果たすべきか、考えずにはいられませんでした。

そして現在、この節目を記録した50周年記念誌を作成中です。来年3月には発刊を予定しておりますのでぜひそちらもご覧になってください（士会員の皆様にはCD-Rでお届けを予定）。

50周年記念式典準備委員
加賀屋 勇気

2020年から研修部を担当しております。コロナ禍による研修環境、新生涯学習制度など、我々を取り巻く環境が大きく変わってきました。どのような状況においても、充実した研修が受けられるように企画してまいります。



ワタナベ モトユキ
研修部 渡邊 基起

秋田大学医学部附属病院

専門分野 運動器疾患

今年度から広報部部長を仰せつかりました加賀屋です。会員の皆様、また県民の皆様に県士会の活動がスムーズかつ的確に伝わるよう、微力ながら尽力させていただきますので宜しくお願い致します。



カガヤ ユウキ
広報部 加賀屋 勇気

秋田県立循環器・脳脊髄センター

専門分野 心臓リハビリテーション

新役員紹介 後編

監事の他に、本会の地域包括ケア推進担当者もさせてもらっています。介護予防や地域ケア会議への参画は、自身の視野を広げる絶好の機会だと思います。You never know till you try! Try it!



スズキ カツマサ
監事 鈴木 克昌

地域密着型特別養護老人ホーム うぐいす城東

専門分野 地域理学療法

士会会員・県民のための士会の運営に、役員最古参の経験を活用して協力していきたいと考えています。



クラタ マサカズ
監事 倉田 昌一

介護老人保健施設 なごみのさと

専門分野 介護保険下の生活期リハビリテーションを学習中

ブ ロ ッ ク 活 動 班

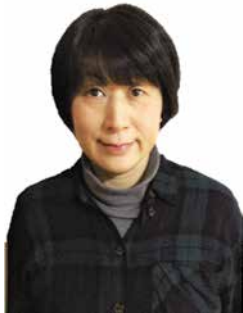


オオタ ケンタロウ
北 部 大田 健太郎

大湯リハビリ温泉病院

専門分野 生活環境支援

理事として2年を務めました。県士会活動の役割を理解することで精一杯でした。これからの2年は理解から行動へ、そして会員同士、あるいは会員と地域が繋がることの魅力を発信していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



ヨシコ
中 央 ジョーンズ 佳子

秋田リハビリテーション学院

専門分野 地域理学療法、在宅訪問理学療法

中央ブロック所属の会員同士の連携を強化し、地域に貢献できる体制を構築したいと考えています。また、地域理学療法の活動に関わる会員を増やすことを目標としています。今後も、各種地域支援事業等に向けて、自治体との連携を強化して取り組めるよう努力していきます。

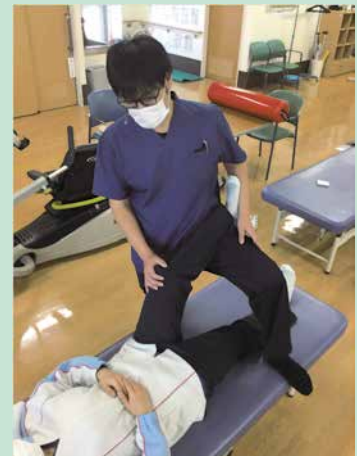


スズキ カズヤ
南 部 鈴木 和也

大曲中通病院

専門分野 地域リハビリテーション

南部ブロック担当しております。地域活動普及のため、尽力していきます。



新役員のもと、県士会活動が再始動致します。
引き続き県士会活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

秋田県理学療法士会 と 災害支援 ⑤

災害リハビリテーションに参加したい

～ 理学療法士に求められる知識と技術 その① ～

災害医療派遣検討委員会 委員 鈴木 綱太

Vol. 202号では災害支援に必要な心構えについて紹介しましたが今回は、日本理学療法士協会の災害時のパンフレットからも一部抜粋してご紹介します。具体的にどのような事を災害現場で行うのかをイメージしていただければと思います。

1 | 災害時の理学療法の目的

最低限の目的は

「離床ならびに歩行によって不動状態による廃用症候群を進行させないこと」ですが被災地では、C S C A T T Tにもあるように指示と連携をしっかりと理解して活動することが求められます。

実際、対象者の病歴や医学的情報を十分に得られないまま、被災してからの経過も踏まえて介入しなければならない時もあり、数少ない情報だけで活動せざるを得ない状態も想定されますので目的の理解は大切です。

C S C A T T T とは

Command & Control (指揮と連携)
Safety (安全)
Communication (情報伝達)
Assessment (評価)
Triage (トリアージ)
Treatment (治療)
Transport (搬送)

災害時のリハビリテーションの役割 ▼

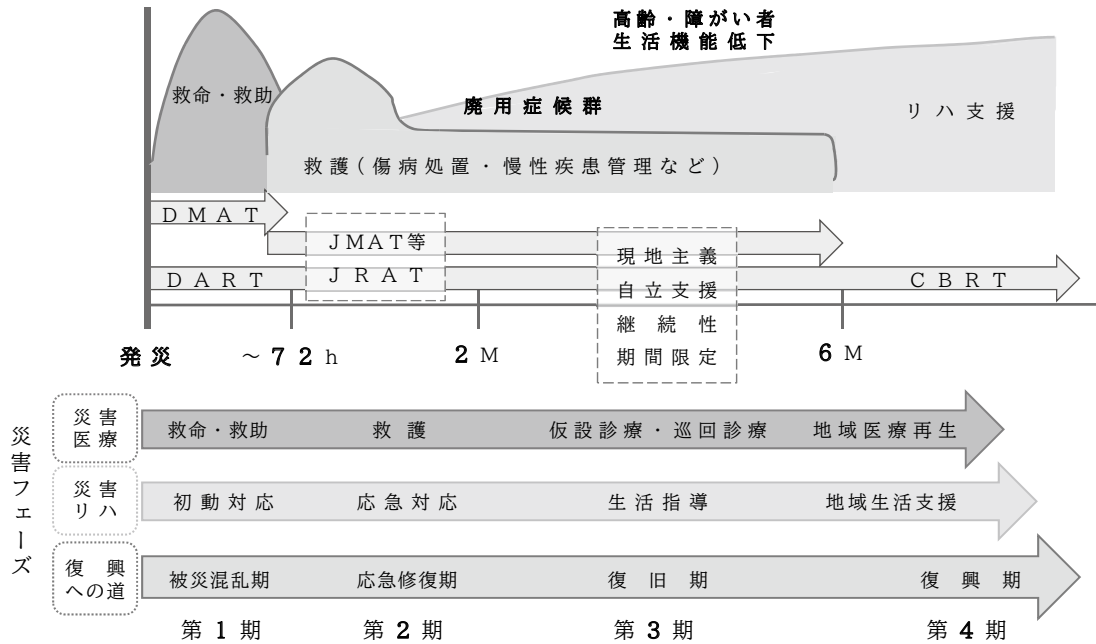
- ① 平時に行っていたリハ医療を守ること
- ② 避難所などでの廃用症候群を予防すること
- ③ 新たに生じた各種障害へ対応すること
- ④ 異なった生活環境での機能低下に対する支援をすること
- ⑤ 生活機能向上のための対応をすること

災害リハビリテーションテキスト (以後テキスト) より抜粋

2 | 災害支援のタイミングについて

災害が発生し、経時的状況変化に対応した支援が求められますが、私たちが実際に支援する時はどのような状況でしょうか？

テキストでは、**フェーズ分類**による災害リハ支援の位置づけが示されています。



第1期～4期までにわけられ、主に2期～3期に活動すると思われます。

※発災直後からの状況変化と支援
大規模災害リハビリテーション対応マニュアルより作成

また、「医療者向け 災害時の理学療法マニュアル」では、限られた環境であっても安全な理学療法を遂行するための指針として、以下のようなフローチャートが策定されていますので、興味を持った方はぜひ確認してみてください。

Check ▼

- 災害リハビリテーション対応のフェーズ.pdf (japanslht.or.jp)
大規模災害リハビリテーション対応マニュアル抜粋
- 医療者向け 災害時の理学療法マニュアル (日本理学療法士協会)



次回は「災害リハビリテーションに参加したい
～理学療法士に求められる知識と技術 その②～」をお届けします。
引き続きよろしく申し上げます。

表彰
報告

第40回東北

前号でお知らせした五十嵐優子氏、木元稔氏から受賞の

皮膚筋炎治療中にステロイドミオパチーを呈した症例

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター **五十嵐 優子**



この度、最優秀賞と新人賞という名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思っております。

大会長の佐竹将宏先生、準備委員長の齋藤明先生、本学会に携わっていただいた皆様、そして症例報告の開示に快く同意をいただいた患者さんに心より御礼申し上げます。

今回の発表は、筋肉量と身体活動量の関連性について研究をすすめている中で、筋力低下と筋萎縮を主症状とする疾患の本症例であれば、何か明らかにできるのではないかと思います。まとめるにあたり、一緒に研究に取り組んでいる同僚に相談にのってもらい、意見やアドバイスをもらえたことはとても有り難いことでした。また、何度も繰り返しご指導いただいた須藤先生には深く感謝しております。

今後も、筋肉量と身体活動量に関する研究を継続していきたいと思っています。筋肉量や身体活動量の低下はサルコペニアやフレイルの要因であり、入院中の患者さんのみならず地域高齢者においても広くみられるものです。急性期、回復期、慢性期のどの病期においても、疾病予防や健康増進の観点からも、筋肉量と身体活動量は重要な視点と考えています。今後の研究において、何か一つでも皆様に貢献できる成果が得られるように努めていきたいと思っています。

理学療法学会大会

言葉を頂いておりますので、ご紹介いたします。

一定の歩行速度へ誘導するための、プロジェクション・マッピングの応用

秋田大学大学院 木元 稔

本研究は、プロジェクション・マッピングを用いて動作の課題提示を行い、脳性麻痺児の方々の急な歩行停止を分析する研究の一部です（科研費：18K17708）。開発した手法は、床に投影した動く線に被験者が合わせ歩行することで、歩くスピードを上げたり、急に停止してもらったりことを可能にします。単純な歩行速度の制御だけではなく、他の歩行動作にも応用が可能なシステムであると考えています。



研究の遂行には、被験者の方々はもちろん、秋田県立医療療育センターのスタッフの方々、また本学理工学部 水戸部一考教授にも多大な支援を賜りました。この場をお借りして、皆様に改めてお礼申し上げます。

臨床から離れた私にとっては、患者様に理学療法を行う皆様のご協力が、より大きな成果を得るために必要不可欠です。そのため、可能な限り研究の機材や技術の支援を行い、コラボレーション研究の機会を得たいと考えております。直近ですと、本学保健学科で所有しているVR (Meta Quest Pro)、MR (HoloLens 2) のゴーグル、マーカーレス・モーションキャプチャー (Theia3D)、IMUセンサー (AMWS020) などを臨床現場に持ち出し、一緒に研究ができないかと考えているところです。2023年度はオーストラリアのメルボルン大学とThe Royal Children's Hospitalで、10か月間にわたり研究も行ってきますので、もう少し歩行解析の知識と経験も蓄えた上でみなさんと研究ができるのではないかと自分自身に期待しています。興味がある方は是非お声がけください。

臨床実習指導者講習会

～ 秋田県の3年間とこれから～

2020年（令和2年）から始まった秋田県における臨床実習指導者講習会ですが、2022年12月17・18日で、3年間各3回、合計9回を実施することができました。

新型コロナウイルスの流行と共に本講習会が始まり、初回から延期せざるを得ない状況でしたが、初年度はコロナ禍の収まりを見計らって、対面にて実施することができました。2年目からはzoomを活用したオンラインで実施してきましたが、対面方式とは違った難しさもあり、参加いただいた先生方にはご迷惑をおかけした点もあったかと思えます。しかし、この3年間はそのコロナ禍にもかかわらず、先生方のご協力で、当初の計画通り実施することができました。先生方には日常の臨床業務でお忙しい中、学生教育にご協力いただき、大変感謝申し上げます。この3年間の参加人数等を表でお示し致します。

	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	合計
実施方法・回数	対面・3回	Zoom・3回	Zoom・3回	9回
参加人数	128名	138名	70名	336名
参加病院・施設	43か所	37か所	39か所	70か所

次年度からも引き続き実施していく計画です。実施方法や回数は未定ですが、決まり次第、本ニュースやホームページにて、ご案内いたします。

先生方には重ねて御礼申し上げるとともに、今後とも学生教育へのご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

秋田県臨床実習指導者講習会協議会

佐竹 将宏

研修部からのお願い

今後、秋田県理学療法士会で行う研修会において、QRコードの読み取りによる履修登録を行うこととなります。これまでは研修会終了後に研修部で参加者の確認・登録を行ってまいりました。しかし、生涯学習制度の変更により、申請に伴う作業が煩雑となることでヒューマンエラーが起きることも多分に想定されます。ご自身のポイント管理も行えますので、会員マイページ専用アプリをインストールの上、ご協力お願いいたします。

▼ インストールはこちらから



App Store



Google Play

専門領域研究班 セミナー案内



神経より

▷ 歩行再建—デバイスを用いた歩行リハビリテーションの可能性—

日時：2023年1月24日（火） 18:30～19:30

講師：武田 超 氏（リハビリテーション・精神医療センター）

伊藤 優也 氏（循環器・脳脊髄センター）

申込方法：日本理学療法士協会マイページ（セミナー番号：105496）

申込締切：2023年1月19日（木）

Web開催
参加費無料

平素は当会の活動に際し、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

このたび、専門領域研究班 神経グループでは2023年1月24日（火）にセミナーを開催する運びとなりました。テーマは「歩行再建—デバイスを用いた歩行リハビリテーションの可能性—」です。脳卒中患者の歩行獲得は重要な目標であり歩行再建に向け様々なアプローチが行われております。その中で今回のセミナーでは武田先生に「歩行再建に向けたロボットリハビリテーション—これまでの報告と今後の課題—」と題し歩行支援ロボットを用いたアプローチに関して、伊藤先生には「脳卒中片麻痺患者における機能的電気刺激と歩行リハビリテーション」と題し機能的電気刺激を用いた歩行再建について、それぞれ臨床現場での実際を交えながら紹介していただく予定です。

運動量増加機器加算が新設され注目されているロボットスーツや機能的電気刺激装置の実臨床での活用方法など貴重なお話を聞くことができるのはもちろんのこと、脳卒中患者の歩行分析や歩行再建におけるポイントなどもご教示いただける予定です。日々の臨床現場での疑問解決、翌日からのアプローチにお役立っていただける内容になると思います。

ご多用中とは存じますが、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、重ねて来年度のご案内です。来年度、神経グループでは文献抄読を基本に症例検討やプチセミナーなどの内容を定例で行う学習会を企画しています。月に1回20分程度と気軽に参加できる形式で考えております。詳細が決まりましたら再度ご案内させていただきますので是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

秋田県理学療法士会開催の研修会ではQRコードによる出席確認を行います。

JPTAアプリが必要になりますので事前のインストールをお願いします。



研修会に参加

スキャンして出席確認



現地でも



Webでも



- 10.7 3役会議(秋田市)
 10.8 秋田リハビリテーション学院特別講演(秋田市)
 10.9 日本理学療法士協会組織運営協議会(Web)
 10.11 当会50周年記念事業準備委員会(Web)
 10.12 秋田大学医学部保健学科講義(Web)
 10.14 離職者予防講習会講師(Web)
 10.14 当会50周年記念事業打ち合わせ(秋田市)
 10.15 第43回秋田県リハビリテーション研究会、総会(Web)
 10.17 学会企画班第27回学会委員会(Web)
 10.18 当会第27回学会担当準備委員会(Web)
 10.20 当会50周年記念事業準備委員会(Web)
 10.26 士会理事会ならびに三役会議(Web)
 10.28 当会50周年記念事業打ち合わせ(秋田市)
 10.29 秋田県呼吸ケア研究会、世話人会(秋田市)
 10.31 当会50周年記念事業打ち合わせ(秋田市)
 11.2 秋田大学講義(秋田市)
 11.4 齊藤協会長当院訪問、懇談(秋田市)
 11.5 当会50周年記念講演・記念式典開催(秋田市)
 11.6 日本理学療法士協会第二回Spiceフォーラム(Web)
 11.7 離職者予防講習会講師(秋田市)
 11.8 呼吸ケアセミナー(Web)
 11.11~12 日本呼吸ケアリハビリ学会、プログラム委員会(幕張)

会長のあゆみ

10~12月会長活動記録



Cartoon by MomentCam

- 11.14 第1回秋田県医療審議会医療人材部会(Web)
 11.16 秋田大学医学部保健学科講義(秋田市)
 11.16 秋田県リハビリ専門職協議会(Web)
 11.21 リハビリテーション教育評価機構実地調査(Web)
 11.22 当会50周年記念事業会議(Web)
 11.27 秋田県リハビリテーション研究会イヤーピックアップセミナー(Web)
 11.28 湯上市障害者自立支援審査会(湯上市)
 11.29 医療ニーズ企業面談(Web)
 11.29 専門領域研究班運動器セミナー(Web)
 11.30 日本理学療法士協会第5回士会支援事業運営部会(Web)
 12.2 北海道東北ブロック私的勉強会(Web)
 12.7 当会拡大理事会ならびに臨時総会(秋田市)
 12.21 当会50周年記念事業会議(Web)
 12.22 県立ち入り検査(秋田市)

よこしま 思い邪無し 一会長の想いをつづる



【感謝そして後継】

11月5日に創立50周年記念事業を無事盛会裡のうちに終えることができた。すべての皆様
 に心より感謝申し上げたい。記念式典で式辞を述べるにあたり、今まで発刊された記念誌と
 関係書類を読み漁った。読むほどに50年を支えてきた諸先輩の挑戦、意気込み、気迫、馬力、
 知力が容赦なく伝わり、ただただ脱帽でしかない。何事もそうだが、止める時は確かに大きな
 決意を必要とするが、選択肢が多くないので意外と簡単に決着できる気がする。続けることの
 大変さと、それを解決し続ける強い意志あるいは使命感を持ち続けることの難しさをひしひし
 と感じる。

私だけか、それとも県民性がそう思わせるのか、コロナ禍で祝賀会ができなかったことが名
 残惜しい。60周年は2032年(令和14年)、高齢社会真ただ中で、理学療法士の需要もさ
 らに高まり、ここに参列した会員諸氏も国民の健康増進のため活躍の幅を広げていることだ
 ろう。確実にバトンを渡したい。

菅原慶勇

思い邪無し：
 「論語」より。人々の詩を詠む心について述べた一節。
 嘘偽りのない純粹さの意。

ニュース編集班より

あけましておめでとうございます。広報部の佐々木です。いつも読んでくださっている皆様に感謝申し上げます。今年も様々なトピックスを提供できるよう努めていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。207号の表紙は森吉山の雪景色です。雪にはうんざりかもしれませんが、この時期ならではの景色も良いですね！

ニュース編集班では掲載記事のご相談もお待ちしております。次回ニュースの原稿締め切りは3月17日(金)です。宜しくお願い致します。

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 佐々木杏奈

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：sasaki-anna@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園 秋田リハビリテーション学院

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校

平成27年4月開校
秋田県初!
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します! 医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33

〒010-0964 秋田市八橋鯉沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)

FAX 0187-66-2139

☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 池ヶ谷 敏之

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2

Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546

横手営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4

Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313

能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番

Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621

秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5

TEL/FAX 018-882-2116

帝人ヘルスケア株式会社

東北支店 秋田営業所

秋田県秋田市大町3-4-1 NLP秋田ビル 7階



(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

一般社団法人日本義肢協会加盟・東北101号



株式会社 千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22

TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>